



巻頭言

小説のすすめ

教職課程センター長 曲田浩和

私は教職課程の学生に小説を読むことを勧めています。小説とはいわゆる物語（ストーリー）のある作品のことです。日常生活のなかで人の思いや行動について立場や役割を意識して捉えることはなかなか困難ですが、小説を通じて人の心の動きや行動の変化を感じ取ることができると思っています。私が小説を読むことを勧める理由は以下の3つです。

一つめは追体験ができることです。二つめは臨機応変の対応ができるようになることです。三つめは社会を知ることができることです。

追体験とは、他人の体験を作品を通してたどることによって、自分の体験として捉えることです。教師は多くの児童や生徒と関わりを持ち、時には相談を受けることもあります。子どもたちはそれぞれ育ってきた環境が異なるとともに価値観も違います。教師一人が持っている経験では想像が及ばないこともあります。そこで追体験ができる小説は教師の幅を広げてくれます。

想像を超える物語の展開が小説の醍醐味です。教師には予想しないことを体感する経験が大切であると思っています。学校現場では予期せぬ事態がしばしば起こり、臨機応変の対応が望まれます。咄嗟の判断に教師の力量が試されます。

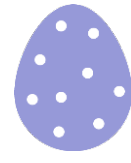
複雑化する現代社会を新聞・テレビなどのニュースのみで理解することは難しいことです。小説ではイメージ化された現代社会を背景に物語が展開されます。小説を通じて社会を知ることによって子どもたちの置かれている状況を考えることができます。

最近、私が読んだ東海市出身の中村文則さんの小説『列』（2023年 講談社）は、序列社会のなかで列に並ばずにいられない人々の人間模様を描いた作品です。順位付けの評価を重要視する考えは学校でもみられます。率先して列に並び1番を目指す子どももいれば、列に並ぶことすらできない子どももいます。列に並ぶ人たちと一線を画すと、学校から自分の居場所がなくなり、学校以外に居場所を求めざるを得なくなる子どももいます。「列」という視点で捉えた社会をイメージし、教師として子どもたちと向き合うことができると考えています。「無理して列に並ばなくてもいいんだよ」の一言で救われる子どもがいるのではないのでしょうか。

小説に限らず、漫画・映画などの作品に触れることもお勧めします。物語の背景や展開に注目して主人公になって作品を楽しむことで、教師に求められる幅広い経験ができると思います。



ステップアップ講座に参加して



教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 松浦彩香

○参加しようと思った動機

私が本講座に参加しようと思った理由として、教員採用試験まで半年ちょっとになったところで、その対策として何をしたらいいのか分からず、その具体的な方法を知りたかったからである。そして本学の掲示板で講座の案内を見つけ、友人や教員の紹介で教育採用試験について知るきっかけになればと思い、参加を決めた。

○参加して感じたこと

本講座では教員採用試験の日程などの動向や面接の説明や、CDP 講座を含む学内支援ツールの紹介があった。さらに講座の後半では実践型の練習として、場面指導や集団面接、個人面接、グループ討論などが用意され、私は個人面接を選択し、参加した。

私は愛知県の教員採用試験を受ける予定で、その試験日程が早まっていることを再確認することができ、何回も繰り返して過去問を解き、量をこなして問題に慣れるようにと言われた覚えがある。その言葉もあり、CDP 講座を受講することを決め、勉強するきっかけをつくることができた。

本講座の後半である実践練習では、私は個人面接に参加した。最初に基本的な面接の流れを説明されたが、具体的に想像ができなかったため、すぐに実践練習に切り替わり、4、5人いる中で順番に一人ずつ面接を行う形で進められた。そして、面接練習において最も印象に残っていることは、自分自身の癖に気づくことが重要になることである。自分自身の癖というのは、口癖や仕草のことであり、私の場合は「えーっと。」という口癖や、視線が上がってしまうことが挙げられた。自分自身の癖というのは、自分の中で習慣化されてしまっているため、普段気づくことができない。しかし、この実践練習を得て、自分の癖に気づき、意識して直すようにしようと思えた。また面接の質問に対して、ありきたりな回答ではなく、自分のオリジナルがあるものを取り入れることで、個性を伝えることができることも学んだ。

本講座に参加して、頭の中で想像しているだけでは何も進めないことと、実践練習の重要性に気づくことができた。これから面接練習を重ね、本番に挑めるように準備していきたい。

○教採に向けての意気込み

本講座に参加したことで、教員採用試験に向けて今自分自身が何をしなければならないのかについて知ることができた。まず勉強をする習慣を身に付け、コツコツと進めることや、学内支援ツールを活用し、ここでしか得られないものを吸収して、自分のものにしていきたいと思う。また面接練習では、友人や学内の教員に協力してもらいながら、共に高め合って頑張っていきたい。最後の最後まで諦めずに努力し、合格を勝ち取りたいと思う。





教員採用試験合格体験報告会に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 品川真里奈

○教員採用試験報告会に参加したきっかけ

私が教員採用試験報告会に参加したきっかけは2つある。

まず1つ目に教員採用試験の前倒しになったことである。例年、7-8月に実施されていた教員採用試験の1次試験が令和7年度から6月16日を目安に前倒しすることが文部科学省から求められた。それに伴い、早い自治体であれば、5月に教員採用試験を実施することが決まった。例年よりも早い段階から採用試験の対策をしなければいけない状況になった。採用試験が早期化することを知り、漠然とした焦りと不安を感じた。2つ目に教員採用試験を受験するにあたり、合格を勝ち取ってきた先輩方がどのように試験に向き合ってきたのか生の声を聴きたいと考えたからである。教員採用試験に合格した方から実際に教員採用試験について聴くことができる機会は少ない。

想定外のことが起こる今だからこそ、情報を集め、今の私にどのような準備が必要なのか知りたいと感じ、教員採用試験合格体験報告会に参加することを決めた。

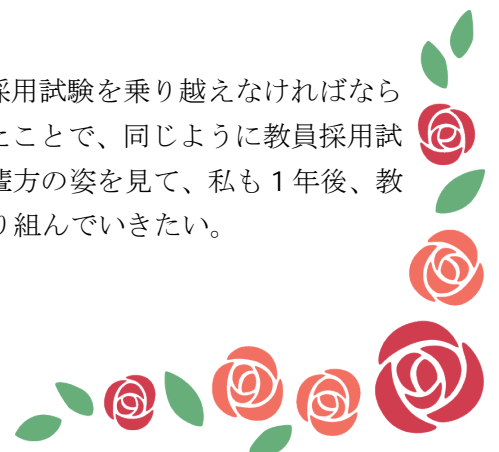
○教員採用試験合格体験報告会に参加して

教員採用試験合格体験報告会では、教育・心理学部、社会福祉学部、スポーツ科学部、経済学部、国際福祉開発学部の先輩5名の方々からお話を聞くことができた。報告会の内容は「目指した理由」「受験理由」「大学での学び」「試験対策」などであった。5名それぞれの考え方や視点からどのように教員採用試験に向き合ったのか聴き、私自身が受験する自治体について知り、準備していくことが必要だと気づくことができた。また報告を聴く中で、「今の授業を大切にし、これまでの経験を伝えるために言語化する」ことが心に残った。これまでの経験を伝えることができるよう、日頃から準備していきたい。

今回、教員採用試験合格体験報告会に参加して、今後の学生生活でしなければいけないことを見つけることができた。さらに、当日配布された合格体験報告の冊子には、今回発表してくださった先輩の他にも、合格した先輩の学習方法、受験にあたっての心境などが事細かに載っており、この冊子を貰うだけでも価値があると感じた。

○今後

教員採用試験合格体験報告会に参加して、教員になるために「教員採用試験を乗り越えなければならない。」という思いがより強くなった。そして、この報告会に参加したことで、同じように教員採用試験に臨む同志にも出会うことが出来た。堂々と報告してくださった先輩方の姿を見て、私も1年後、教員採用試験に合格したい。そのために今できること、新たな目標に取り組んでいきたい。





合格体験報告会に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 石川帆乃夏

○合格体験報告会に参加しようと思った動機

私が合格体験報告会に参加した動機としては、より多くの情報を収集したいと思ったからです。インターネットや資料から得られる情報だけでは、自分の将来を明確にすることができず、何から手を付けるべきなのかわからなくなりました。だからこそ、教員採用試験に対する不安を少しでも解消したいという気持ちと実際に先輩方の勉強方法や面接をどのように対応するのか、モチベーションを向上させるための方法などを直接お伺いしたいと思い参加しました。

○参加して感じたこと

全体を通した報告会では美浜と東海キャンパスの先輩方からお話を聞くことができました。さまざまな学部学科の先輩方からのお話を聞くことができ、特に面接練習の頻度や対策方法、過去問をどのくらい繰り返して勉強をしていたのか、イメージしながら参考にしたいと思える内容ばかりでした。過去問に関して5年分は必ず解くことや、3回繰り返すことで問題の傾向や予想がわかるようになるというように具体的に私たちに向かって「こうした方がいい」という考え方を真剣に伝えてくださる姿からエネルギーをいただくことができました。また、複数の先輩方から面接対策は早いうちから始めたほうがいいということをおっしゃっていました。

面接は自分がしてきたことや経験を自分の言葉で語り、体験していない人にどれだけの情報を伝えることができるのかという難しさがあるからこそ、日常から「言語化」していく必要があることを知りました。私は、特に自分の感情や考えを人に伝えることが苦手で自分の言葉でまとめようとすると相手に伝わりきらないことが多々あります。だからこそ、常に自分の気持ちや考えていることを言語化しようと意識し、相手に伝える練習を日頃からしていこうと思えるようになりました。

また、受験自治体に分かれて少人数グループでお話を聞く時間も用意されており、さらに深いことも質問することができました。おすすめの勉強方法や実際に面接ではどのようなことを聞かれるのか、ボランティアや子どもたちと関わる機会があるなら積極的に参加して経験を増やすことが大切など今からできることをお話してくださったのでモチベーションを高められました。勉強や面接練習は手を抜かず、後悔しないように頑張りたいと思えるいいきっかけとなりました。本当に参加してよかったです。

○教員採用試験に向けての意気込み

採用試験に向けて、頑張りたいことややらなければならないことが明確になり、焦りや不安はもちろんあります。しかし、今回の合格体験報告会を通して先輩方のような自信に満ち溢れた姿になっていたという目標も同時に持つことができました。これから過ごしていく時間も限られているからこそ、後悔しないように試験勉強や面接練習に取り組みます。





合格体験記（名古屋市・小学校）

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 橋本みなみ

○受験勉強を始めた時期

テキスト等の準備は合格体験報告会に参加した翌日、勉強はお正月休み明けから

○受験勉強をどのように行ったか

- ① 受験予定の自治体の過去問を解く（自治体の傾向と現時点の自分の実力を把握する）
- ② 基礎問題を解く（春休み中はひたすら繰り返して基礎を固める）
- ③ 定期的に模試を受ける（自分の実力と位置を把握する）→評価は気にしない
- ④ この科目ならこの分野なら確実に点が取れるという部分を作る
（得意科目は落とさないように、苦手科目は基礎問題や苦手な中でもできる部分を極める）

○〈参考書〉

- ・『小学校全科の要点理解』時事通信出版局
- ・『一般教養の要点理解』時事通信出版局 ・『教職教養の要点理解』時事通信出版局
〈問題集〉
- ・『小学校全科の演習問題』時事通信出版局 ・『専門教科 小学校全科』東京アカデミー
- ・『一般教養の演習問題』時事通信出版局 ・『教職教養の演習問題』時事通信出版局

○スランプに陥ったときの対処法

- ・勉強から離れて好きなことをする ・生活リズムが乱れていたら戻す

○面接・小論文対策

- ・講座に参加する ・大学の先生や友達にお願いをして練習する
- ・キャリア課?の方が nfu に掲載してくれたものを活用した（小論文）

○受験してみて得られた知見や教訓

- ・本命の自治体の前に、その場の雰囲気や時間配分をつかむために別の自治体を必ず1つは受けたほうがよい
- ・どうしてもすぐ忘れてしまうところや苦手なところは、試験直前に見返せるように小さいノートにまとめておく

○後輩へのメッセージ

正直、辞めたくなくなるときが何回か来ると思います。でもそれを乗り越えた先に合格が待っていると思うので、生まれれば終わる精神で、時には周りを頼りながら後悔のないようにやり抜いてください！応援しています！





合格体験記（愛知県・高校福祉）



社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉専修4年 宇野美尋

私は、2024年度採用の愛知県教員採用試験を受験し、無事現役で合格をすることが出来ました。1番重要なことは、自分に合った勉強法で自分に合ったモチベーションの維持の仕方での勉強、面接の練習をすることだと思います。なので、まだ勉強法を確立していない方や、何をしたら良いのか分からない方にお伝えできることがあれば良いなと思います。

(1) 一次試験対策

一次試験で1番勉強すべきことは専門です。まずは過去問を解くと良いと思います！私は3年分を3周解きました。なんとなく何がでるのか分かってきます。分からなかった所を教科書（実教出版）で確認、見直しすることが大切です。愛知県は教科書の隅々から問題が出題されます。本文ではなく脚注やコラムからも出題されたりもするので教科書を時間があるなら全部読むのはオススメです。私は福祉科卒ではなかったので真っ白な教科書を全部読みました。後は全国福祉高等学校長会というHPが出している社会福祉・介護福祉検定を行いました。令和4年分全部と平成30、29年も解きました。1級～4級、それぞれ100問位あるので莫大な量です。ですがこれを解いて、分からなかった箇所などを教科書で見直し、自分なりにノートにまとめると、理解度も上がっていきました。教職教養と一般教養についても愛知県の過去問5年分を3周解きました。毎年出ている問題が教職教養に関しては大体分かってきます。そこを重点的に㊦一般教養に関しては、CDP講座に参加しそこで取り上げられていたことを軽く解いたくらいです。かなり範囲が広いのであまり時間はかけませんでした。小論文は60分で900文字、構成をしっかり（序論本論結論）、聞かれている問題に対して意見や答えを記述することが出来るか、2回くらい練習したら良いと思います。

(2) 二次試験対策

正直に言うと、勝負は二次だと思っています。一次を無事通ったとして、二次の面接対策が甘かったり、自分の意見をしっかり述べるが出来ないと落ちます。私は大学のキャリア開発課や福祉科の先生方に協力して頂き、臨機応変に答える練習や具体的に自分の意見を言えるよう準備していきました。面接では大学でどんな活動に力を入れてきたのか、どういう教師になりたいのか、どういった実践をしたいか、などかなり幅広く聞かれます。そんなとき私が自分の意見を堂々と答えられたのは、積極的に色々な人と出会い、関わる機会に参加、挑戦してきたという強みがあったからだと思います。沢山の人の考え方や生き方に触れ、実践に参加したことが面接に生きてきました。なのでモチベの維持にも関わってきますが、勉強勉強で視野を狭くすることなく、忙しいとか、他の学生より勉強があるからと、色々な機会に、挑戦することをやめることのないようにして欲しいなと思います。ちなみに私は試験1週間前にゼミ3、4年打ち上げに参加していました。後輩との縁を大切にしたいからです。「いつかは今から」何事にも貪欲に！息抜きをしつつ頑張ってください！





合格体験記（福井県・特別支援学校）

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 越井虹帆

1. 受験対策・勉強法について

私が受験対策を始めたのは先輩の合格体験発表を聞いた1月の後半からです。ですが、その時から毎日何時間も勉強していたわけではなく、本格的に毎日図書館に行って勉強するようになったのは4月からだったと思います。1月から3月の期間は、10分でもいいからやらない日はなくそうといったような感じで行っていました。4月からは本当にほぼ毎日図書館に行き、図書館が閉館しているときは友達とスタバなど勉強できる空間に行き、勉強していました。家でするときもありましたが、私は外で朝から夜までやって家では好きな動画を見ながらご飯食べて寝るといった家でのリラックスタイムの時間があった方が頑張れたので、なるべく外でしていました。学校が行っているCDP講座には全部参加し、面接対策講座には自分の面接の基盤ができるまでは参加していました。筆記の勉強法は、とにかく解説を読んだり書いたり、ノートにまとめたりすることが私は大切だと思います。使用していたものは、CDPで買った参考書と福井県の過去問、それと今年の合格体験記で先輩方が紹介された参考書のみで何冊も中途半端に行くよりかは、絞った参考書を深くつめるほうが良いと思います。教職と一般教養はマークなので全部完璧にしなくてもよいと思います。苦手な分野は捨てることも必要だと思います。私は、数学と理科が苦手なのでその分、教職教養に力を入れていました。福井県の場合、教職・一般教養で最低基準点がないといくら専門教科で良くてもダメなのでそこは注意です！そして専門教科についてですが、福井県は特支の試験が記述式なのですがその中で、文章で解答する問題がとて多かったです。一問一答については参考書や過去問を解きまくったらできると思います。文章での問題の場合は、過去問を探してもなかなか似たような問題がないので、知識を深めて、その知識を様々なところに結びつけるようにすることが大切だと思います。私は、面接ノートを作る際に、様々な質問に対しての答えを準備していたら知識もつけることができたので、面接ノートを作ることは必須だと思います。とにかく、1次試験の筆記を4,5,6月は集中的に行いました。1次試験が終わり、2次試験までは1か月程度あります。一次試験が終わった瞬間、ゼミの先生に個人面接をお願いし、またゼミ生でお互いに試験官として聞いてもらったり、意見を出し合ったりしました。個人面接練習は行えるだけ行いましょう。小論文については自分の書き方のパターンだけでも決めておくべきだと思います。

2. 後輩へ伝えておきたいこと

どれだけ教員になりたいか、強い気持ちを持つことは本当に大切だと思います。また、一人で勉強はとてもしんどいので友達とたまにでも一緒にするといいと思います。私は自分のモチベ向上のために、毎日勉強していたノートを写真に撮って、一言添えていました。前向きな言葉を自分にかけてあげてください！こんだけやってもあかんかったのならしょうがない！といいきれるまで頑張ってください！陰ながら応援しています！





合格体験記（和歌山県・特別支援学校）

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 泉亭弥

①受験対策・勉強法について

私は、計三つの県を受験しました。受験勉強は二月の中旬から本格的に始め、使っていたテキストは「全国まるごと過去問」の特別支援学校と教職教養です。初めは、特別支援学校のテキストを使い、専門教養の基礎的な知識を押さえることを意識して勉強をしました。また、その際ただ過去問を解くのではなく、その問題の解説を読み込み、正解を覚えるのではなく、なぜこのような答えになるのかを理解することを大切にしました。そして、復習を特に重要視してその日に行った問題を次の日に行うというルーティーンを繰り返し、解ける問題数を少しずつ増やしていきました。筆記での勉強は基本的にこのテキストのみを使い、同じテキストを二、三周繰り返し行いました。

このように、筆記対策ではとにかく問題を解くことを続けていたため、モチベーションが低い日には苦勞することもありました。その時に私が意識していたことは、自分のメンタルを上手く保つということです。具体的に私は、余裕がなくなると自分の本来の力が発揮できない性格なので、教員採用試験の期間中はあまり自分を追い込みすぎず、合格を目標にするのではなく、教員を目指す者として今自分がやれることはやろう。という気持ちで勉強に励んでいました。しかし、これはあくまで私に合っていた方法であり、自分を追い込み、絶対に合格するという気持ちを持った方が上手くモチベーションを保てる人もいると思うので、まずは自分と向き合い、自分に合った方法を見つけることが大切だと思います。

次に、二次試験対策について、和歌山県の二次試験は個人面接・集団討論・小論文の三つがありましたが、面接については共に教員を目指す仲間達と集まり、反復練習を行いました。その際、初めは志望動機、自己pr、過去にその県で質問された内容を書き出した面接シートを作り、その内容に対する応答を覚えることから行いました。面接シートを使ったことで、自分の思いを文章に書き出すことができ、面接に対する自信がついたり、教員へのやりがいや再度実感することができたりしました。面接は集団で行ったことで、身近に頑張っている人がいて自分ももっとやらないといけないって思うことができたり、アドバイスをし合うことができたりと集団で高め合うことの大切さを実感しました。

②実際、受験してみて得られた知見や教訓、後輩へ伝えておきたいこと

実際に受験をしてみて、二次試験対策の重要さを実感しました。私は、受験をするまで一次試験の筆記が最も大切だと思い筆記の勉強を重点的に行っていましたが、合格を目指すなら早い段階から筆記と並行して面接対策もするべきだと思います。また、面接では自分がなぜ教師を目指したのか等を答えないといけないため、それを考えることで自分の目指す場所が明確になり、モチベーションも高まると思います。そして、これらのことをしようと思うと二月からの勉強では時間が足りないので、まずは一日に少しずつでも勉強をする習慣をつけていくことをおすすめします。

教員採用試験は二次試験までいくと短くて半年間という長い期間、試験と向き合わなければなりません。そのため、自分と向き合うことを大切にして自分に合った方法で合格できるよう頑張ってください。





教員の魅力

スポーツ科学部 スポーツ科学科 2020 年度卒業
愛知県特別支援学校教諭 塚原涼太

1. はじめに

私は 2020 年度に日本福祉大学を卒業し、2021 年 4 月から 2 年間、講師として県内の特別支援学校で勤務しました。その後昨年度の教員採用試験に合格し、今年度より正規採用職員として働いています。講師経験や、正規職員として働いたこの 1 年で感じたことなどについてまとめます。同じ教員を志す在校生の皆さんにとって、少しでも参考になれば幸いです。

2. 特別支援学校の魅力

大学 4 年生で受験した採用試験に不合格となり、講師先を探していた私に、一番初めに声をかけていただいたのが特別支援学校でした。大学では、特別支援学校に実習に行き、特別支援の免許を取得していたものの、いざ自分が特別支援学校のなかで働いていけるのか不安でいっぱいでした。4 月に入ってから、講師という立場から教員の輪に馴染んだり、生徒の実態を把握したりすることに時間がかかりました。しかし、毎日を必死で過ごすうちに生徒たちの暖かい雰囲気や、授業や日常生活での「できた」「分かった」を間近で見ることが増えました。そのような瞬間の生徒の表情や、教員の団結感に感動したことを覚えています。同時に普段の生活のなかで、私たちが感じることもない困難さを抱えた生徒たちが通う特別支援学校で働き、その専門性を高め、生徒たちが豊かに生活していくための力になりたいと強く思いました。

3. 講師経験と正規採用としての 1 年

2 年間講師として働き、1 年目は授業の行い方、生徒との接し方、特別支援学校の 1 日の流れなどおおまかな部分を知りました。2 年目は、学級の副担任として、学校の組織に関すること、会議、書類の扱い方など細かな部分を知りました。特に 2 年目は、自分のクラスの生徒とより深く接することができたり、私が主担当で行事を計画、運営したりする経験もできました。

今年度は新しい学校に赴任し、初任者として研修続きの 1 年でした。一教員としてはもちろん、社会人としてのマナーや振る舞いを 1 から学びました。また昨年度まで勤めた学校とは雰囲気や仕組みが異なり、戸惑うことも多くありましたが、今年はたくさん学ぼうと周りの先生方にも支えられながら過ごしました。授業計画や教材作りをすることが増え、悩むことや上手くいかないことの方が多かったですが、生徒が真剣に取り組む姿や、今日は上手くいったと思えるその 1 回の授業にやりがいを感じることができています。

4. 最後に

私の経験を綴った文章になってしまいましたが、この文章を読んで、教員としての毎日を想像し、前向きに捉えてくださると幸いです。年々、教員を志す人が減り、現場でも人手不足に悩んでいるのが現状です。もちろん大変なことはたくさんありますが、前述したようにそれを吹き飛ばすくらいの魅力がある仕事だと思います。この文章を読んでくださった皆さんとこの先一緒に働けることを楽しみにしています。最後になりますが、これからの在校生の皆様のご活躍を期待しています。



卒業生からのたより



国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 2017年度卒業
愛知県高等学校教諭 野田美里（旧姓・西頼）

○教職を希望している、またはこれから希望しようとしている皆さんへ

初めまして。これから書く文章が、皆さんにとって何か1ミリでも届くものであるといいなあと思いながら書かせていただきます。最初に私の経験を少しだけ。

○卒業後の話

私は卒業後5年間、講師として私立と公立の高校、計4校で勤務し、現在は正規採用として現在の学校で勤務しています。その中でも特に印象に残っているのが、初めて公立高校で常勤講師として働いた1年です。それまで授業だけだった非常勤講師から急に、副担任・分掌・部活動では主顧問と仕事量がそれまでの比にならないくらい増えました。ただ、この1年で講師ではなかなか経験することのないような仕事を体験させてもらうことができました。講師として働いた5年間は私にとって勉強の毎日で、多くの先生方から様々なことを吸収させてもらいました。そして現在、正規採用としての1年をもうすぐ終えようとしています。その話はまたあとで。

○採用後のお仕事の話

現在勤務している学校では、1年生の副担任、分掌は生徒指導部、吹奏楽部の主顧問を担っています。これまで講師としての経験があるため、ある程度の学校の動きは把握していますが、学校によって内情は全く違うので、まずは学校に慣れることが大変だったと記憶しています。その中でも印象的だった話を2つほど。

現在、私は英語科教員として働いていますが、高校生まで英語は超が付くほど苦手科目で、英語の時間が苦痛で仕方なかった記憶があります（じゃあなぜこの仕事を選んだのかは長くなるので省略）。だからこそ生徒たちには、「英語って楽しい!」「ちょっと興味出てきたかも」と思ってもらえるような授業を心掛けています（何よりも、教員にとって教科指導力は必要な資質の一つです）。この1年は研修期間ということもあり、他の先生方の授業見学や研究授業を通して、教材研究に追われる毎日でした。特に研究授業では、毎回必ず自分の中でテーマを決め、何か一つ改善できるようにという気持ちで臨んでいました。最初は本当に嫌だなという気持ちばかりでしたが、他の先生方から御助言をいただけるのは初任者としての特権と気付いたことで、日々の授業も少しずつ変化していきました。その結果、生徒に実施した授業アンケートで、「英語の授業って嫌だったけど、英語が少し楽しいと思った!」といった意見を多数もらうことができ、より一層教材研究に力が入ったように感じます。「授業ができない先生には生徒は付いてこない」と言われたことがあります。まさにその通りだと思います。ただ、授業や教材研究よりも大変だったのは、授業で使ったプリントチェックや英文添削でした...

さて、生徒指導も教員として必要な資質の一つです。分掌が生徒指導部だから、そうじゃないから、では学校は回りません。教員1人1人が生徒を指導できなければ、大変なことになります。これまで講師としての立場で行っていた生徒指導と、正規としてきちんと研修を受けた生徒指導とで私の中でやり方を変えていく必要がありました。しかし、周りの先生方の支えもあり、少しずつ受け持ちの生徒のための生徒指導を行えるようになってきました。他の先生方も非常に多忙な日々を送っていますが、生徒に関わる指導や仕事に関しては、初任者だからこそ、積極的に質問していくように心掛けています。それができるのが、「初任者」の特権でもあります。

○教職を目指す皆さんへ

「仕事」というのはどんな業界でも大変だと思います。その中でも、「教師」という仕事は直接人の人生に関わる仕事の一つです。楽しいことも嬉しいこともあります。辛いことやしんどいと感じることももちろんあります。そんな仕事をするからこそ、自分をリラックスさせる方法やストレス発散方法

を今のうちに探しておくことをお勧めします。先生が元気でなければ生徒の元気もなくなるということをよく聞きますが、本当にその通りですし、気持ちが折れて仕事を辞めなければいけないという話もよく聞きます。皆さんが教員になったとき、辛い選択をしなくてもいいように、リラックスできる方法を今のうちに見つけておいてください。ちなみに私は、ドライブとダーツ、友人との付き合いなどで気持ちを整えています。



障害児教育実習体験記

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 大蔵音葉

私は、長野県伊那養護学校で障害児教育実習を行いました。私が配属されたのは、知的障害小学部3年生のクラスでした。2週間という期間はとても短くてあっという間でしたが、学びが多く充実した2週間になりました。子どもたちとの関わりがとても楽しく、子どもが好きだという気持ちを再確認できたと同時に、先生方との関わりの中にも多くの学びがあり、特別支援学校ならではのよさをたくさん発見することができました。

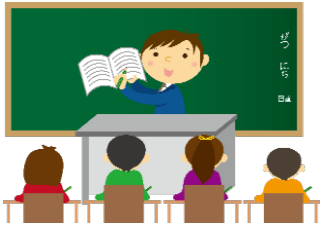
教育実習が始まって最初に感じたのは、特別支援学校は「遊び」の時間がとても多いということです。子どもたちは遊びの中でもたくさんのことを学んでいるというのはよく言われることですが、特別支援学校では教育課程の中に遊びの時間を設けていることがあるのだと学びました。私が驚いたのは、子どもたちと一緒に先生方が全力で遊んでいたことでした。特別支援学校の先生の仕事は子どもたちと遊ぶことなのか・・・?とってしまうほどでした。しかし、私も子どもたちと早く仲良くなりたくて全力で一緒に遊びました。すると、始めは目を逸らしたり私から隠れたりしていた子どもが自分から遊びに誘ってくるようになりました。ある先生からは、「遊びの中で子どもとの信頼関係を築いていく」ということを教えていただきました。それくらい、特別支援学校では「遊び」の時間を重視しているのだということを学びました。

特別支援学校の最大の特徴は、1クラスにつき先生が複数人いることだと思います。私が配属されたクラスには、先生が3人いらっしゃって、先生方の団結力や連携がとても素晴らしかったです。毎週メインで前に立つ先生が変わって、その他の先生は子どもへの個別対応をしたり、前に立っている先生の言葉に反応して子どもの興味を惹くような言葉かけをしたりしていました。3人先生がいることで、1人1人の先生の負担が減ったり、悩みがあるときに3人で相談して考えたりすることができるのがとてもよいと思いました。

私の研究授業でも、他の先生方が一緒に授業を考えたり、子どもへの対応や授業の盛り上げをしたりしてくれたおかげで、参観した先生方からとても高い評価をいただくことができました。見に来てくださった先生方に一番褒められたのは、クラスの先生方のチームワークでした。他の先生方のサポートがあったからこそできた温かい授業でした。

特別支援学校ならではの複数担任制は、私にはとてもぴったりのシステムだと感じました。先生同士の関係性にもよるとは思いますが、先生同士の関係性がよく、連携がしっかり成されているクラスで実習をすることができてとてもよかったです。私は4月から特別支援学校で働くので、他の先生方としっかり団結して頑張っていきたいです。





小学校教育実習体験報告



教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 酒井隼斗

私は名古屋市の学校に3週間、実習を行った。私が実習した担当学年は2年生である。

1. 1週目 児童を知ることから始める

教育実習がスタートして1週目に行ったことは配属されたクラスの児童一人一人がどんな児童か、授業の様子や休み時間、担任の先生から聞いた話から理解するようにした。児童のすべてはもちろんわからないが、「国語は得意だけど算数には苦手意識を持っている」、「外国籍の子で日本語がまだ不慣れなところがある」など、授業づくりをするうえで配慮するところが見えてくる。

2. 2週目 実際に授業を行って

2週目にはいよいよ授業をすることになる。指導案ありで算数を、指導案なしで国語の授業を行った。指導案なしでも担任の先生が行っていた授業を参考に行ったため、1から自分で作った授業ではない。そのため失敗することは少なかった。しかし、「次の出来事を想像して言葉にしよう」というめあてであったのに対して、実際は「写真の出来事を言葉にしよう」という内容になってしまった。理由は児童が答えになる写真を覚えていたからであり思い通りに進まない難しさを体験した。

3. 3週目 実習総まとめ 研究授業と1日担任を行って

3週目には実習の総まとめとして研究授業のほか、私の学校では1日担任をさせてもらった。研究授業に選んだ科目は算数であり、担任の先生とは違ったやり方、進み方に子どもがうまくついてくることができなかった。さらに、投影機やプロジェクターを初めて使って行う授業に板書がうまくいかず、内容のわかりづらい授業になってしまった。

実際に行くと想像とは違った答え、反応が帰って来ることが多く、その時にどう臨機応変に対応していくか、考えておく必要があると感じる。1日担任を体験してすべての授業を行う難しさ、子どもの対応の難しさを実感した。10分で授業の準備を行い、終わったら次の授業の準備と全く時間が足りなく感じた。トラブルの対応ではまず担任の先生がいつもどうしていたのか、担任の先生ならどう対応するか想像しながら行った。大切だと学んだことは子どもの話を最後まで聞き、いやだったことなどお互いに納得の行くまで話し合いをさせることだと学んだ。

インフルエンザによって学級閉鎖が起きてしまい、学級閉鎖明けに1日担任を行い、子どもたちも久しぶりの学校につかれている子や元気のない子、さらには担任の先生がおらず私が担任と普段と違った状態に心配をする子も多かった。そんな時に教務主任の先生や別のクラスの先生に助けをいただき、本当に感謝しかない。こんな先生たちと一緒に働いていきたいと心から思う。

4. 最後に これからの実習生へ

小学校実習に向けて、まずは講義を大切にしてほしい。「〇〇教育法」で学んだことが子どもに通じるかはわからないが、授業を計画するうえでやはりとても大切だと実感した。次に実習学年が決まったら、図書館にある各教科の担当する学年の本を読んでみてほしい。さらに授業の範囲まで決められていたら、実践例を探して読んでみてほしい。図書館には授業づくりに参考になる実践本が多くある。実際に私も算数の授業する際、読んだ本から持ってきた方法を使った。

最後にどんな科目にも挑戦してほしい。音楽と図工は非常勤の先生であったがやりたいことを伝えるとやってもいいよとってもらった。実際には図工は残念ながら学級閉鎖でできなかったが、他の2年

生の科目はやらせてもらい課題が見えてきた。小学校教員を目指す人はやりたい科目を相談し、無理のない範囲で積極的に挑戦してみしてほしい。そうすることで自分のこれからの課題が見えてくると思う。

実習は大変なことも多くあるが、子どもと一緒にいると楽しく、あっという間に終わってしまう。子どもたちにとっても、自分にとってもいい思い出になると考える。楽しみながら頑張してほしい。



教職インターンシップで学んだこと

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修2年 鈴木麻哉

教職インターンシップ体験を通して学んだことは、子どもとの関わり方や先生たちが授業以外で何をしているのか、放課後は何をしているのかなどを学んだ。子どもたちとの関わり方は、自分も同じ目線でものごとを見てあげることが大切だと考えた。

子どもたちは運動することが好きでよくドッジボールや鬼ごっこ、サッカーなどを一緒にやった。楽しくやることができたし、ケンカもほとんどなくできたため、先生などが入ってやることで子どもたちとの仲も深まるし、ケンカなどをしないかの監督にもなっているのではないかと考えた。

一度だけドッジボールのボールの取り合いでケンカになりかけていたため、それを上手に止めるために公平さを考える必要があった。それをどのように対処するかで困ってしまい、じゃんけんでボールをどちらが投げるか決めさせたが、ほんとうにそれが公平であったか自信がなく、どうすればいいのか考える必要があると感じた。

授業における子どもとの関わり方で感じたことは、全体を見て声を通るようにハキハキと伝え、子どもにもわかりやすい説明をしていると感じた。難しい言葉を使わずに身振りや手振り、実際にやることで子どもたちがしっかりと理解していたため、先生たちの説明の仕方さに驚いた。とても勉強になり、自分もどのように説明することが最適なのか考えることができた。

先生たちは、ひとりの子と話しているようでちゃんと周りを見ながら会話しているのだと感じた。帰りの会の時にある子と話していたが、支度が遅い子やロッカーが汚いと話している途中にそれを指摘していて、子どもと話しているときでもしっかりと見ているのだと感じた。そして、子どもたちが帰った後に先生たちは、運動会シーズンの時は運動会の準備や次の日のための授業などの準備をしたり、清掃したり、業務員担当の先生はクラスを持っているのにも関わらず、奉仕作業などの草取りなどをしていて先生たちがやる必要のないことまでやっていて教員不足などがわかったし、先生たちがどれだけ大変な仕事なのかわかった。

先生という仕事は、子どもと関わるのがほんとうに好きで楽しいと思える人でないとやっていけないということを感じた。私は、子どものためになんでもやってあげたいと感じたため先生になったら楽しいと感じた。教職インターンシップ体験を通して子どもたちと関わることは楽しいことであり、先生になりたいというモチベーションが上がった。しかし、先生になるために自分に足りない欠点として人見知りして緊張してしまうため、子どもたちと関わる上で緊張しているのは、教員が務まらないためこれからまだ教育実習もあるので子どもと関わることに慣れておくことが大切だと感じた。

教職インターンシップ I で自分の欠点や先生たちがどのようなことをしているのかを見ることができて勉強になった。

今後の予定



◆教職課程オリエンテーション

【新2年生】

美浜キャンパス 2024年3月21日(木) 3限~4限

東海キャンパス 2024年3月21日(木) 3限~4限

教職課程登録

仮登録：2024年3月21日(木)~25日(月)

本登録：2024年4月1日(月)~18日(木)

※教職課程オリエンテーションに出席後、仮登録(Google フォーム入力)及び本登録(課程登録費振込+ Google フォーム入力)を行ってください。

◆教育実習手続きオリエンテーション

【新2・3年生】

教育実習手続き(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼)

及び介護等体験説明

美浜キャンパス 2024年4月4日(木) 3限

東海キャンパス 2024年4月4日(木) 4限(新3年生のみ)

※3年次4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き(中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前)及び介護等体験説明

美浜キャンパス 2024年4月4日(木) 4限

東海キャンパス 2024年4月4日(木) 5限

※教育実習I事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。